

初年次教育におけるグループ学習へのPCおよび授業支援システムの導入

ーアカデミックスキルと学習共同体の形成をめざしてー

【発表者】 本村康哲（関西大学）

1. はじめに

入学したばかりの大学生は、高校での受動的学びから大学での能動的な学びへの移行過程にあるとともに、新たな人間関係構築の途上にある。このため、授業内でのグループ学習や共同作業は、意思疎通訓練の場となると同時に、世界観の拡大や自己の客体化や共同体での責任感を意識することによって、社会性の涵養にもつなげることが期待できる。

本研究では、初年次教育におけるグループ学習の中でPCとLMSを導入し、授業後の学習を継続可能とする環境を提供するとともに、授業後の学習共同体を形成する方策を探る。ここでいう学習共同体とは、課題や問題を共有するとともに、ゴールを目指す過程で発生するアイデアや資料などの情報をも蓄積・共有可能な仮想的空間のことである。

2. 初年次科目「知のナビゲーター」

関西大学文学部では、初年次学生向けに「知のナビゲーター」を開講している（表1）。授業内容は担当者に一任されているが、筆者のクラスでは、最終目標としてディベートに焦点をあて、その過程でリーディング、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションなどのカリキュラムを展開している（表2）。

クラスの主な目的は、学習スキルの形成であるが、他人との意思疎通を図りながら学習を進めていく姿勢を育成することにも重点を置いている。このため、授業ではピアレビューをとまなうグループワークを多く取り入れた共同学習に重点をおいている。また、毎回

の授業では課題としてワークシートを与え、作業が課題解決へと向かうように授業を構成している。

表1 「知のナビゲーター」

開講クラス数	16クラス
開講形態	半期開講・演習形式
クラス定員	25名
教科書	『知のナビゲーター』[1]

表2 授業スケジュール

回	授業内容
1	ガイダンス、文書作成
2～3	プレゼンテーションと評価
4～5	文書作成
6～7	ディスカッション
8～9	練習ディベート
10	読解と要約
11～12	ディスカッションとレポート作成
13	ディベート

3. LMS導入のねらい

LMS（Learning Management System:学習管理システム）は、ネットワークを経由した資料提示、学習課題、学習履歴などの機能を備えた教育システムの一つである。今回は個人的な学習記録の管理だけではなく、共同学習での利用についても試みた。

今回使用したLMSは、「現代GP採択事業（進化するe-Learningの展開）」において開発されたCEAS（関西大学環境都市工学部・冬木研究室）である。CEASは、主として授業内での利用を想定しているが、インターネットを経由した学外からのアクセスも可能としている。出席管理、資料配布、テスト、アンケート、課題作成および提出などの学習

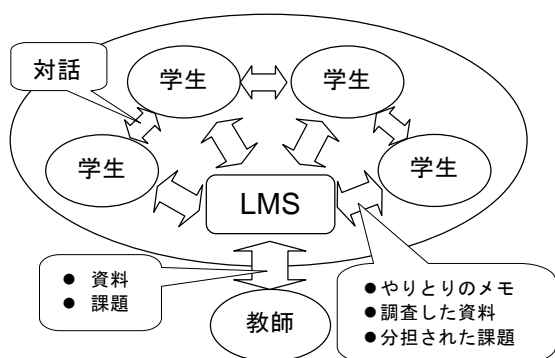


図1 LMSを核にした学習共同体

管理機能だけでなく、グループワークで利用できる掲示板、チャット、グループフォルダ（ファイル共有）などのコミュニケーション機能も備えている。

そこで今回はこのコミュニケーション機能に着目し、ディベートにいたるまでの作業において、グループフォルダを利用した授業中および授業後を通じた学習共同体形成を試み、授業外においても学習の継続性を保持する枠組みを用意した（図1）。

4. 方法と結果

ディベートのチームはグループにつき4名を割り当てた。課題として、プレストシート、エビデンスカード、主張をまとめたレポート、立論ワークシート（ディベートのフレームワークを虫食いにしたもの）の作成を課した。これらの課題はすべてワークシート形式で与え、LMSでの提出を義務付けた。なお、各課題はグループ内で同一のものを各人に提出させた。

ディベートに際しては、各人が課題を役割分担し、資料収集、読解、課題作成といった入念な事前準備だけでなく、グループ内での議論と合意形成が必要である。しかし、これらの作業は授業中だけの学習では時間が不足するので、授業外での学習が欠かせない。

そこでまず、授業中においては、グループで1台のPCを囲みながら共同で課題に取り組ませた。グループにおけるディスカッショ

ンの過程を記録し、それをLMSのグループフォルダにその場で蓄積させた。これによって、授業後の学習の足がかりとさせた。

授業後の学習では、各人が調べた記録や役割分担した課題を独習しながら、その結果をLMSのファイル共有機能によって学習共同体にフィードバックさせた。これらの資料や課題を他のメンバーが参照しながら各自の課題を進めていった。

なお、今回は掲示板とチャット機能は使用しなかったが、学生たちは空き時間を利用した相談や、携帯電話で連絡をとりながら準備を進めた。

5. おわりに

今後の課題としては、提出されたワークシートなどを精査し、学習効果の定量的な分析を行っていく必要がある。また、グループ学習では、作業分担の不均衡などの問題が内在し、これは評価の際に問題となるが、各自が提出した課題を個別評価することによって学生の不公平感を軽減することができるであろう。

多くの大学ではPC演習室を備えるか、あるいは学生のPC購入により、授業時の1人1台の環境はほぼ整いつつある。こういった個別にPCを使用するという環境は独習的なスタイルには向いている。しかし、多くの人間が時間と空間を共有する大学という環境の中において、孤立した状態での学習よりも、意思疎通を図りながら共同で学習を進める環境を用意することは重要である。特に、ステューデントスキルをも念頭に置いた授業においては、グループでPC1台を共有する環境は、知識の相互補完、情報共有しながら意思疎通を図ることが期待できる。

【参考文献】

[1] 「知のナビゲーター」、中澤務，森貴史，本村康哲，くろしお出版，2007。